

第2回桑名市地方創生会議 会議概要

日時・場所	平成27年7月28日（火）14:00～16:00 桑名市役所本庁舎 3階第二会議室
出席者	委員：11名 市：3名 事務局：3名(三重大学3名) 傍聴：5名
会議次第	1. 開会 2. 副市長あいさつ 3. 事項 （1）桑名市の人口分析について （2）桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性の整理について 4. その他 5. 閉会
概要 （主な意見）	3. 事項 （1）桑名市の人口分析について ・他市町の人口推計を見る機会があるが、すべて人口は減少し、グラフは下がっている。つまり、転出超過が多くみられる。桑名市のように増減が少なく落ち着いているグラフは初めて見た。 ・成長の止まった団地での高齢化が始まっている地域もあり、「暮らす」ことが2015年から2040年の間でどう変化していくか、そこを考えていくことは重要ではないか。 ・2040年の人口ピラミッドをみると、90歳以上の女性の割合が多い。これからは高齢者の女性に活躍してもらってはどうか。 ・アクティブシニア（元気な高齢者）が増えるとありがたい。市内でもスポーツ施設が増えるなどその準備はできている。さらに社会保障の仕組みなども考えると良いのではないか。 ・桑名市は都市圏に比べ土地が安い。サービスとタウンマネジメントがしっかりしていれば、桑名市の人口が減っていくことはないのではないか。 ・桑名駅周辺にマンションが建設されており、即日完売と聞いている。駅西の区画開発が必要だと感じている。リニアが開通すれば、相当に需要があると思うので、子育て支援等の施策面で努力すれば桑名市は人が増えるのではないか。 ・街を発展させるのは必要なことではあるが、30年後、40年後の

	桑名の人口にあわせた街づくりを行う必要がある。 ・住むためだけの桑名市となれば、逆に桑名の特徴づけが難しくなり、桑名の特色が薄くなるのではないかな。 ・新たな人たちが入ってくるという点から、人は増えるかもしれないが、「桑名だからこそ住んでいる。」という思いが薄れ、ただ単に生活のためだけに桑名に住んでいるという感覚になってしまうかもしれない。 ・桑名市としてどういう方向にもっていくかという確固たる思いを持っていないといけな。人口の数字だけをみているとドライなものになってしまう。 (2) 桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性の整理について ・多度によいものがあると思う。大黒屋、多度豆の店など素晴らしいのに街並みの魅力が活かしきれていないのではないかな。桑名市のいいものがきちんと伝わっていない。少し手を加えればいいのではないかな。 ・(実施した桑名力探検隊について) 多度のことを知らない学生も多かった。多度大社がどんな神社か、神社の参拝方法なども初めて知ったという留学生が多かった。 ・平成 27 年度の実施事業との整合について、どういう事業を行って、それをどのようにPRするというように、きちんと連動させて作っていかなくてはいけないと思う。 ・「桑名市の弱み」農業の産業化の可能性が引き出せていないについて、まず、農業従事者が高齢化したことで、農業人口が減少しているという現状がある。他市で空いている田畑を有効利用して雇用を増やした市がある。桑名市も参考としたらどうか。 ・長期、短期施策など分けてあるのはいいと思う。ただ、施策をどう具体化して実効性をもたせていくかということが重要であるのではないかな。 ・子どもたちが「桑名学」を学べるといいのではないかな。南伊勢町の本はとてもよくできているので参考としたらどうか。 ・伊勢志摩サミットで伊勢神宮が注目される。「お伊勢参らばお多度もかけよ、お多度かけねば片参り」多度大社もしっかり PR すべきではないかな。 ・住民でホームページを見られる人がどれだけいるのか。誰にでも伝わるような情報発信の仕方をもっと考えてはどうか。 ・インバウンドについて、まち全体が受け入れ体制をとらないとイン
--	--

	バウンドは難しいと思う。全体をリゾート地のようにしなければいけないのではないかと。文化、食事などの違いをどう理解して人を迎えるかを研究し、その体制作りをしていく必要があるのではないかと。 ・ 桑名を訪れた外国人から「桑名は住むにはいいが、文化が感じられにくい。」という意見があった。世界はもう国際化されている。住民に国際交流になれてもらう必要があるのではないかと。 ・ 石取祭がユネスコ無形文化遺産候補になっているので、それをうまく利用してはどうか。 ・ “働きにくる” も、インバウンドのひとつではないか。「働けるまちを創生する」はとてもよい。 ・ 働く人が足りていないところでは足りていない。働けるまちだが、働く人がいないというミスマッチがある。人が来るのを待つのではなく、人材を育成することも大事ではないか。 ・ 大山田団地の空いているところにまとめて区画として入居者を募集するようにすれば、そこに同世代のコミュニティが作られる。まちに愛着が持てるようになる。 ・ 「価値あるものがつくられる産業や農業を考える」に漁業の考えも入れるべきではないか。 ・ 桑名、多度、長島の3つの地域がお互いにインバウンドする（交流する）、地域自慢をするのもよいのではないかと。
担当課	市長公室 政策経営課